

せいけん
詩集

第百十三篇

作：近藤せいけん



「れんたの活躍」

市の空手道大会
団体戦の代表選手 れんた
園児の頃 道場から泣いて
帰ったり メソメソ涙を流し
付き添いの 親を困らせた
泣き虫 れんた

一年生になつた れんた

自由組手の試合

前へ前へ 出る 突きを

蹴りを 連発

多くの観客の大声援 拍手

審判の右手があがり

れんたの勝ち

顔を覆っている 面を取る

晴れやかに 自信に満ちた顔

勝利を噛みしめる顔

成長した君

れんたの活躍